

(8) 中国



中国地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産がさらに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢が厳しさを増している。

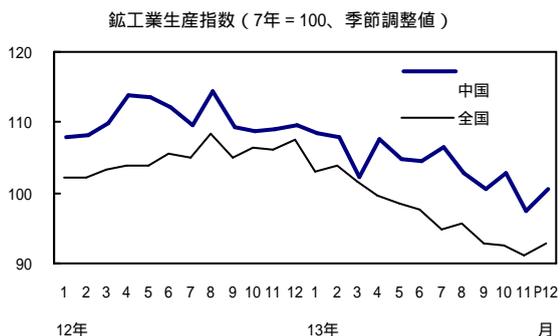
前回調査からの主要変更点

	前回（平成13年11月）	今回（平成14年2月）	
公共投資	前年を下回っている	このところ前年を上回っている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

鉄鋼は、在庫調整による減産が行われている。一般機械は、クレーン等の大型需要があったものの、IT関連需要の減少から半導体製造装置等を中心に減少している。自動車は、軽自動車の新型車の増産やゼロ金利ローン導入等による北米向け輸出の増加があったが、総じて国内販売が不振であることから減少している。電気機械は、一部でクリスマス商戦や年末商戦に向けてパソコンに動きがみられたものの、IT不況の影響等から減少している。化学は、おおむね横ばいで推移しているものの、足元では需要の減少等から減少傾向にある。



(備考) Pは速報値。

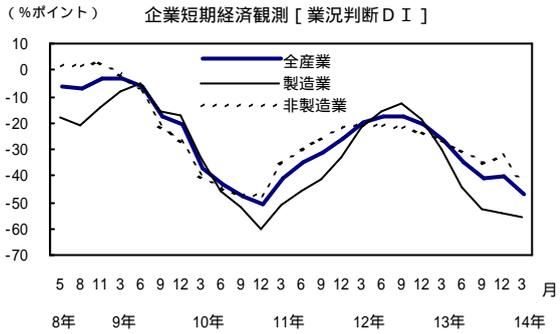
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	16.5	0.4	1.3	1.5	2.6
一般機械	11.5	2.1	8.5	12.2	7.3
鉄鋼	11.4	0.1	10.1	7.6	0.4
電気機械	10.3	5.9	3.2	0.8	11.2
自動車	9.8	2.8	6.3	6.5	1.2
鉱工業	100.0	2.2	3.1	2.3	1.2

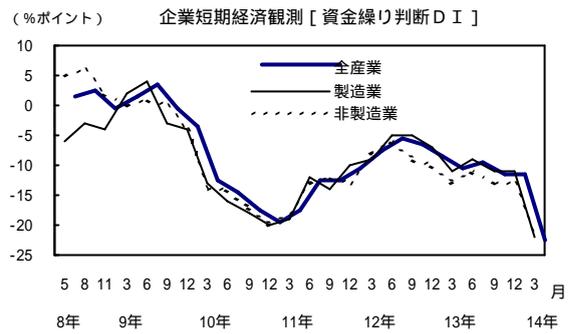
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

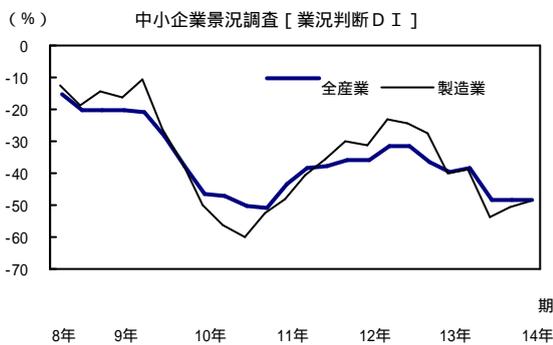
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査)[企業動向関連 (現状判断)]

「部品、特に液晶の価格が回復基調にあるが、低水準であり、数量は増加していない(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

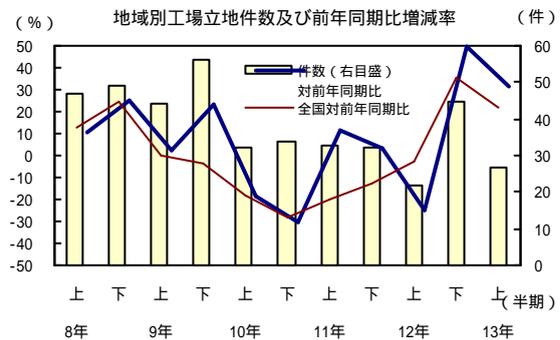
(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]
 (前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	0.1	7.0 (2.9)
製造業	13.0	4.7 (0.6)
非製造業	10.2	9.1 (6.7)

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

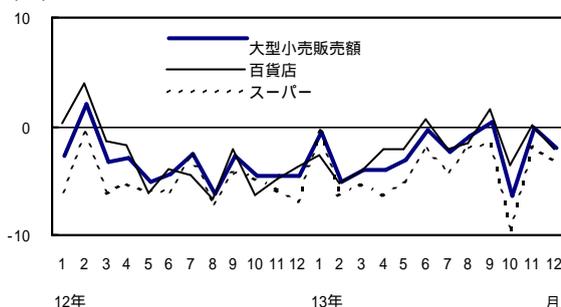
百貨店は、10月は秋物衣料の動きが鈍ったものの、11月は気温が低く推移したため冬物衣料が動き、早期受注の効果から歳暮ギフトが好調であった。12月はおせち料理が伸びたものの、歳暮が早期受注の反動から苦戦した。また、クリスマスや年末商戦でブランド品は好調であったが、冬物セール直前の買い控えがみられ衣料品の動きは鈍った。

スーパーは、牛海綿状脳症の問題などにより主力の飲食料品が依然として不振であることや、大手スーパーの破たんの影響などから前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「客は欲しい物は購入するが、最小限度に抑える動きや単価の低い物を購入する動きがみられる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



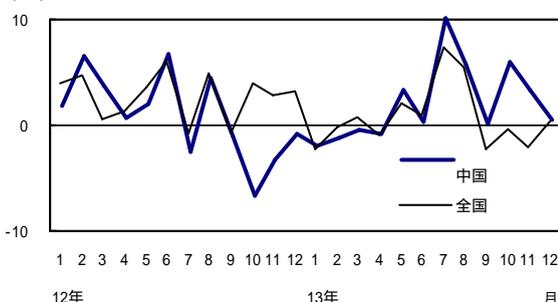
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.9	3.4	2.0	3.6
百貨店	3.9	1.3	0.9	2.0
スーパー	3.8	4.6	2.7	4.7
乗用車	2.4	0.6	3.8	1.7
景気ウォッチャー	44.6	45.7	36.4	34.7

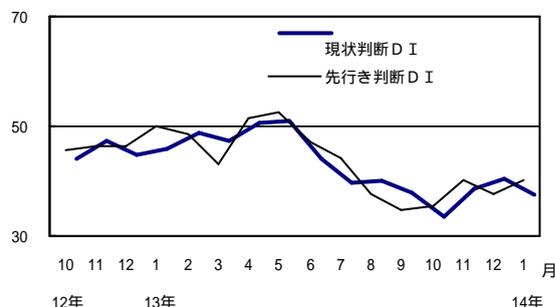
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連D I)

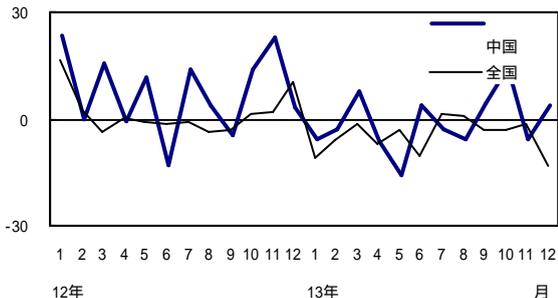


(2) 住宅建設は減少している。

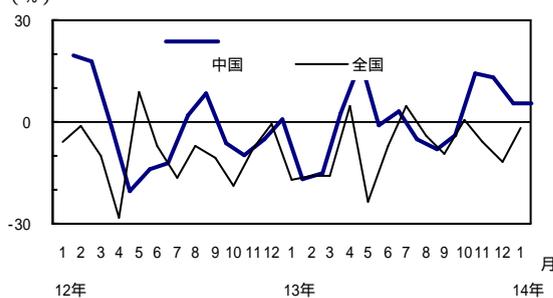
持家を中心に前年を下回っていることから減少している。

(3) 公共投資はこのところ前年を上回っている。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

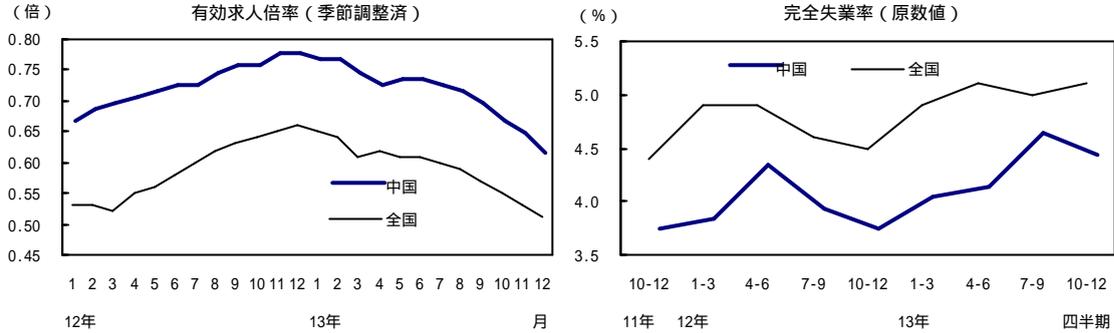


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

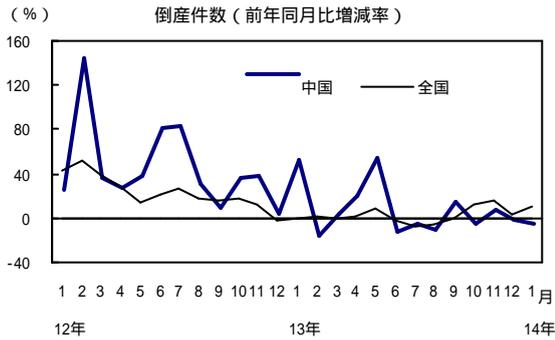
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「求人の動きが鈍く、新規求人が減少する傾向にある (新聞社 [求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	253	259	234	231	71
(前年比)	4.2	7.9	12.7	11.5	16.5
負債総額	677	673	960	553	339
(前年比)	16.5	6.3	84.0	50.1	32.7

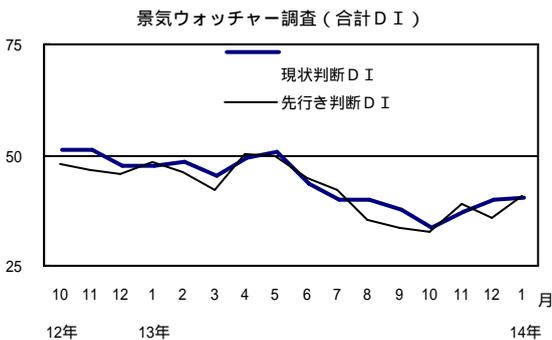
景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・米国テロの影響が薄らいできたことから、国内から国外への需要が増加し、客単価も大幅に上昇している (旅行代理店)。
- ・正月の福袋を購入して、そそくさと帰る客が多い (百貨店)。

<先行き>

- ・宿泊の先行予約が例年の3分の2ぐらいで、非常に入込が悪い (中国 = 観光型ホテル)。



(9) 四国



四国地域では、景気は悪化のテンポが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 住宅建設は減少している。
- ・ 公共投資はこのところ前年を上回っている。

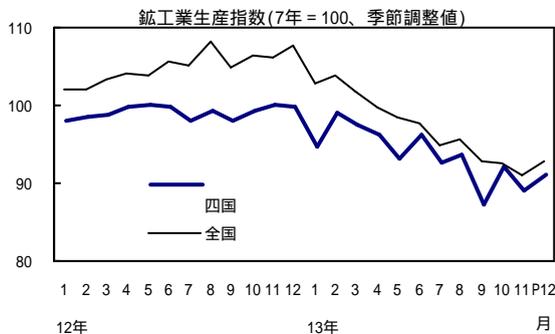
前回調査からの主要変更点

	前回（平成13年11月）	今回（平成14年2月）	
総括表現	大幅に悪化している	悪化のテンポが緩やかになっている	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	
住宅建設	さらに減少	減少	
公共投資	前年を下回っている	このところ前年を上回っている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、輸出やIT需要の減少により一段と減少している。紙・パルプは、板紙、印刷用紙の需要が減少しているものの新聞用紙は安定している。ただし在庫水準は依然として高い。化学は、IT関連では需要の鈍化や輸出の減少などから抑制的な生産となっている。食料品・たばこは、冷凍食品の需要堅調などからおおむね横ばいで推移している。一般機械は、化学繊維機械などが前期に比べ一時的に増加した。



(備考) Pは速報値。

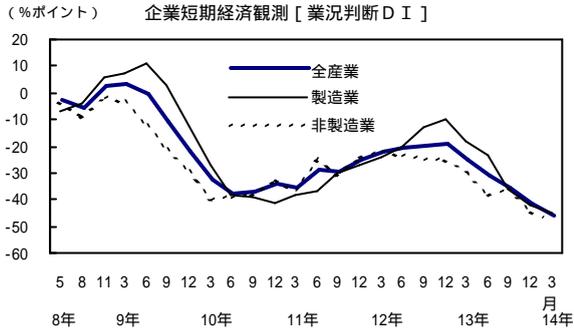
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電気機械	13.1	14.7	10.7	0.3	7.7
紙・パルプ	12.4	3.8	2.8	1.7	1.5
化学	11.8	1.1	3.1	1.1	1.4
食料品・たばこ	11.4	1.3	0.7	0.8	7.1
一般機械	11.3	10.6	16.1	15.4	4.8
鉱工業	100.0	4.3	0.5	0.9	0.4

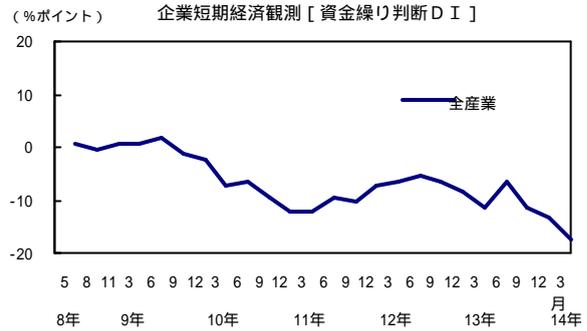
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種

2. 10~12月期は速報値。

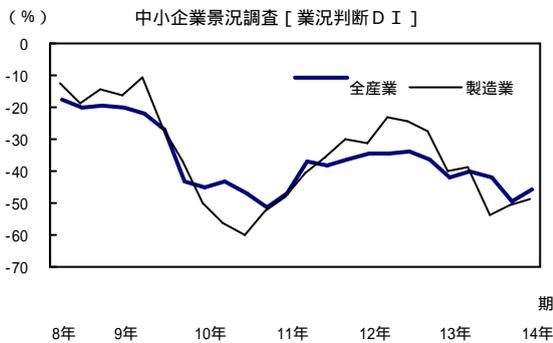
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「取引先の排ガス規制の慎重な見極めが予想以上に強いこと、建設土木関係の業況不振による建設汚泥関係の仕事が非常に減少していることから、受注がやや停滞気味である (一般機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

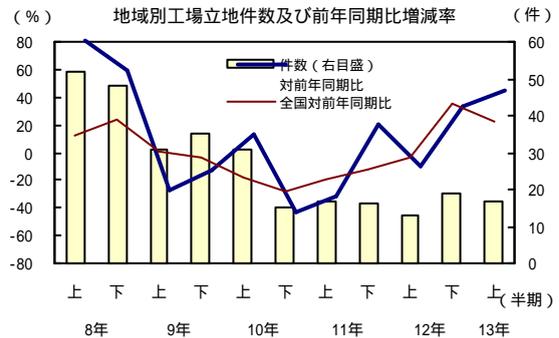
(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	6.9	5.1 [3.9]
製造業	1.1	11.4 [10.5]
非製造業	11.0	14.8 [12.4]

(備考) []は前回(9月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

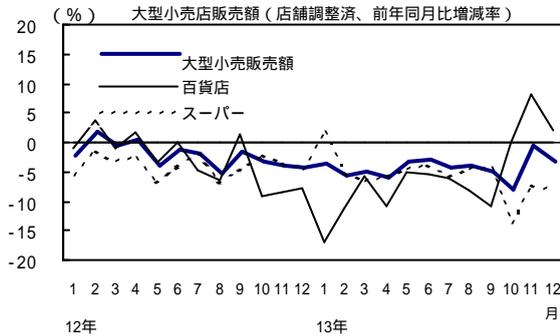
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、紳士服などが不振であったものの、増床やリニューアル効果により婦人服や婦人雑貨が好調であったため、3か月連続で前年を上回っている。歳暮商戦は早期受注を行った11月に大きな動きがみられたものの、全体では法人客を中心に不振に終わっている。

スーパーは、主力の飲食料品、衣料品ともに依然として不振であることに加え、前年の優勝セールの影響などもあって前年を大幅に下回っている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「バーゲンセール中にもかかわらず、物の動きがあまり良くない(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

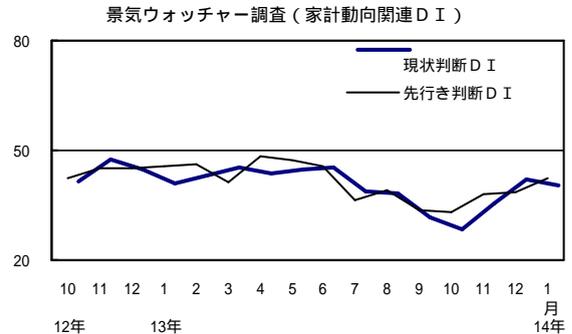
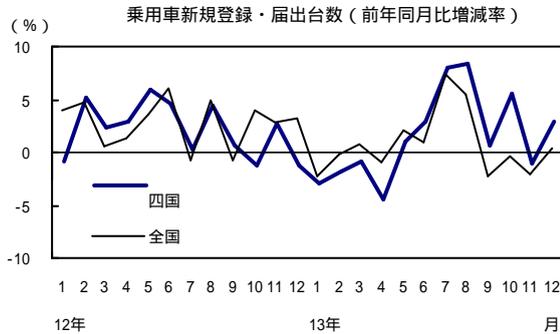


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	6.2	5.5	5.8	5.5
百貨店	11.4	7.4	8.1	3.2
スーパー	3.2	4.7	4.8	9.5
乗用車	3.0	1.3	4.0	0.9
景気ウォッチャー	39.0	40.6	32.1	31.3

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

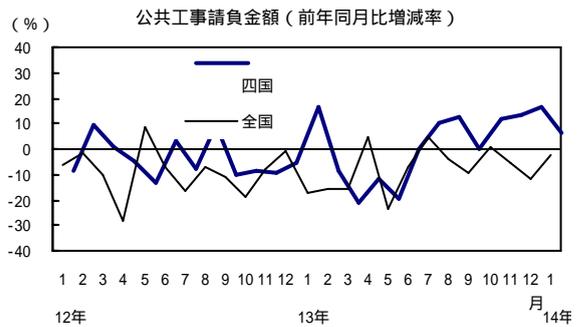
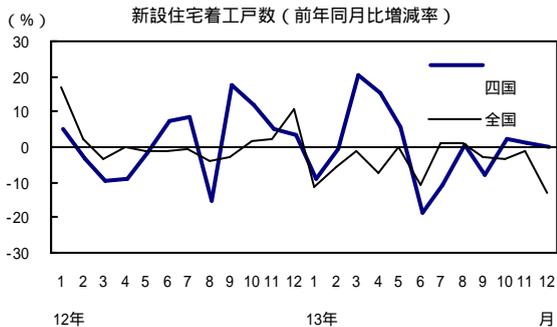
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回っている。

(3) 公共投資はこのところ前年を上回っている。

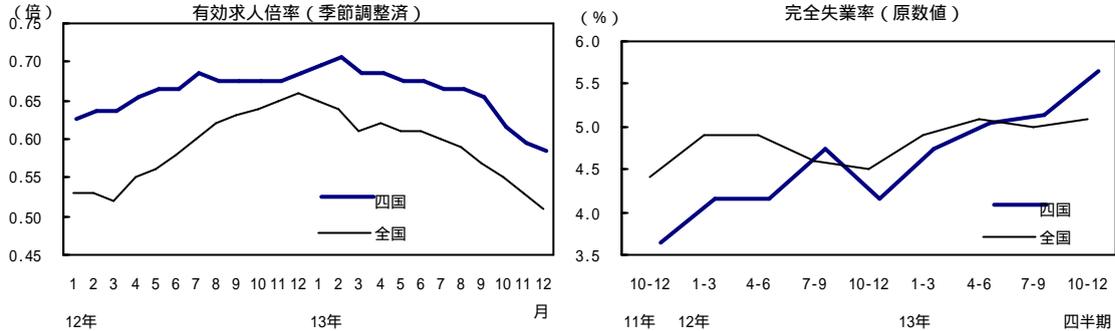


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

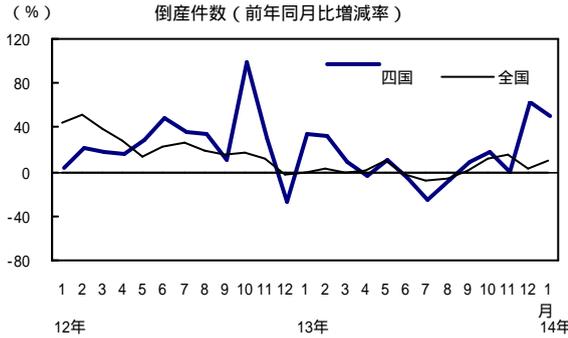
有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査（1月調査）[雇用関連（現状判断）]

「人材派遣の求人は増加しているが、正社員の採用が減少している（人材派遣会社）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	131	126	119	157	61
(前年比)	12.0	10.6	19.0	10.6	38.6
負債総額	850	290	511	915	206
(前年比)	317.9	17.2	51.3	136.3	63.9

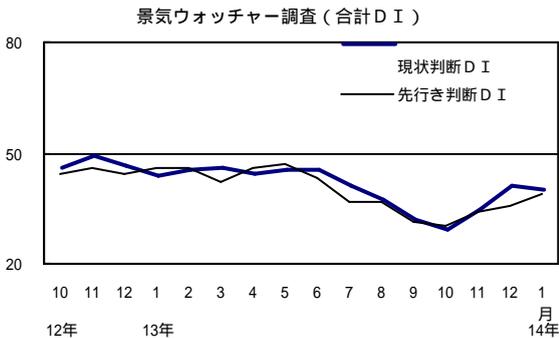
景気ウォッチャー調査（1月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・商品価格競争の部分で円安のため利益が圧迫され、発注量も少ない（食料品製造業）
- ・求人数が少ない上に、求人広告を出すですぐに決まってしまうため、収益が上がる広告がなかなか続かない（求人情報誌製作会社）

<先行き>

- ・製造業の事業所で休業を実施する事業所が増えてきている（職業安定所）



(10)九州



九州地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は厳しさを増している。

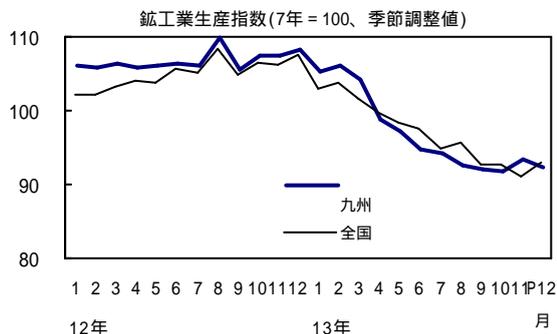
前回調査からの主要変更点

	前回（平成13年11月）	今回（平成14年2月）	
総括表現	一段と悪化している	悪化している	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は在庫調整が進み、プラズマディスプレイパネルなど好調な品目もあることから減少幅は縮小している。食料品・たばこは、焼酎などが好調である。一般機械は、半導体製造装置などのIT関連需要の不振で減少している。輸送機械は減少しているものの、引き続き自動車の北米向け輸出の好調により高操業が続いている。窯業・土石は、IT関連需要の不振から減少していたファインセラミックス機能材の需要や道路用コンクリート製品の生産により増加した。



(備考) Pは速報値。

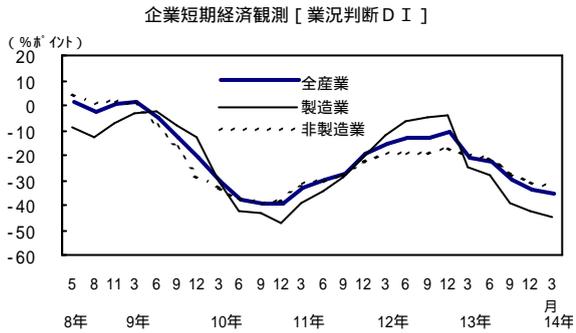
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電気機械	18.6	13.1	1.2	0.7	13.1
食料品・たばこ	10.8	0.2	4.2	1.3	2.6
化学	10.2	0.5	0.3	1.0	2.6
一般機械	10.2	0.6	7.2	10.2	1.3
輸送機械	9.5	2.2	1.7	1.7	16.9
鉱工業	100.0	4.2	0.6	0.7	1.1

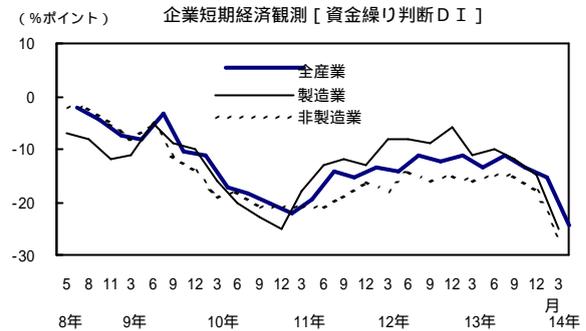
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

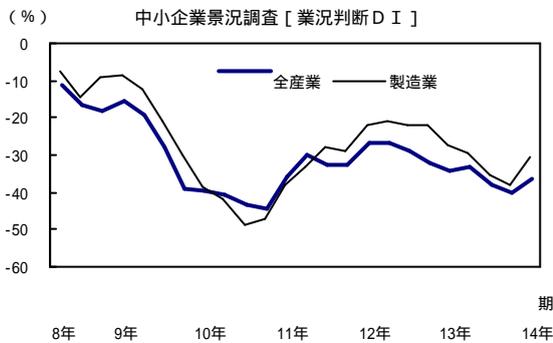
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「工事物件の大小にかかわらず、価格競争が厳しく受注を見送る率が高くなっている (建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	7.9	12.0 (0.3)
製造業	18.0	25.7 (0.6)
非製造業	3.8	5.2 (0.7)

(備考) ()は前回 (9月) 調査比修正率。

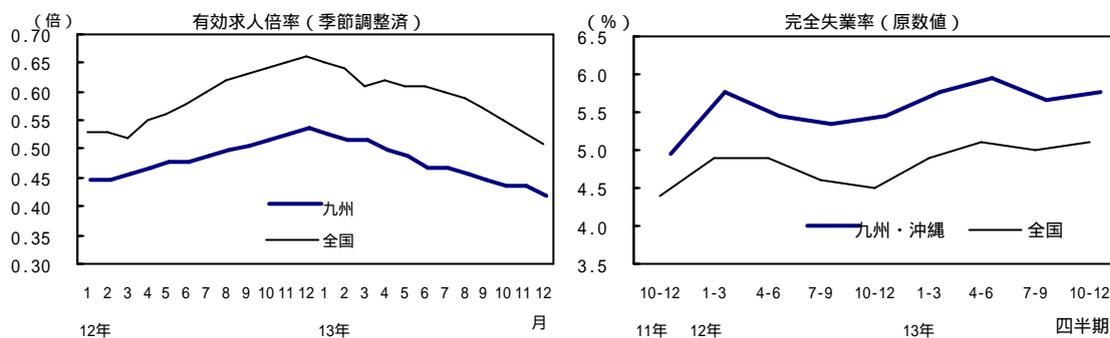


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

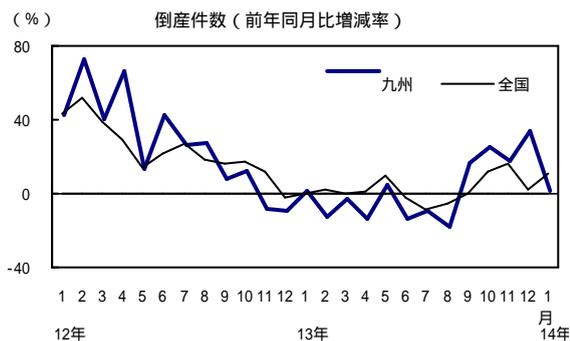
有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「半導体部門の求人数が減少しており、閉店などによる失業者が増加している (人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	408	423	471	523	123
(前年比)	11.7	14.5	11.3	18.6	5.4
負債総額	4,871	1,086	1,939	4,949	370
(前年比)	390.1	61.5	18.9	340.1	0.4

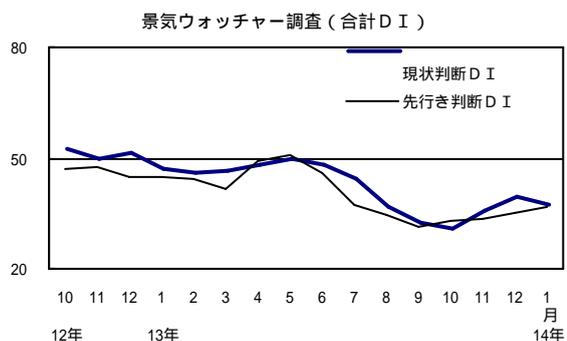
景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

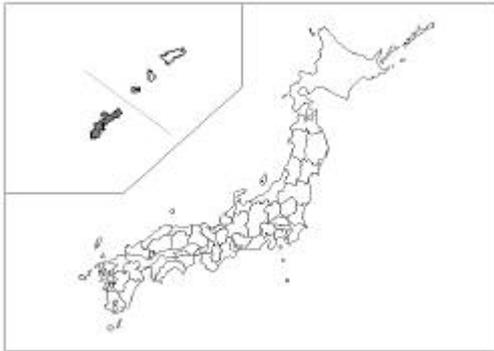
- ・海外旅行及び国内パッケージツアーの受注が若い層を中心に増えてきている (旅行代理店)
- ・年明けから農産物の価格が上昇したものの、例年より早いペースで落ちてきている (農林水産業)

<先行き>

- ・食品以外の単価が下がっているが、狂牛病の影響がやや落ち着いたので、食品で売上がカバーできる (スーパー)



(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は悪化している。

- ・ 観光は大幅に減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいである。
- ・ 雇用情勢が厳しい状況である。

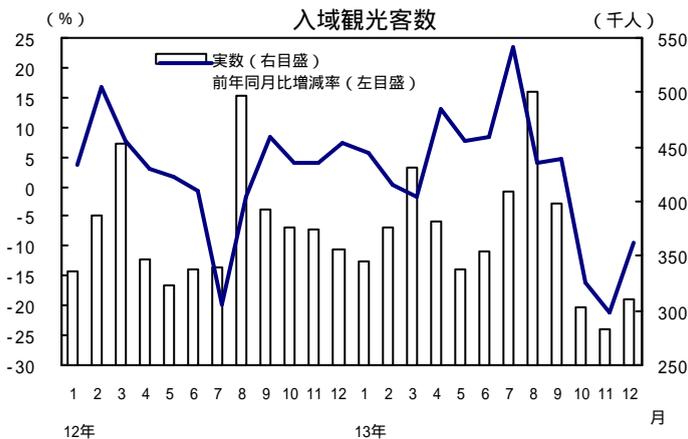
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 13 年 11 月）	今回（平成 14 年 2 月）	
総括表現	弱まっている	悪化している	
観光	減少傾向	大幅に減少	
設備投資	13 年度計画は前年度実績を大幅に下回っている	13 年度計画は前年度実績を下回っている	
住宅建設	増加傾向	おおむね横ばい	
公共投資	このところ前年を上回っている	前年を下回っている	
雇用情勢	厳しさを増している	厳しい状況	

1. 生産及び企業動向

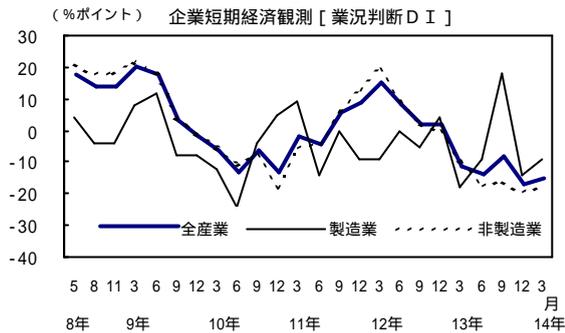
(1) 観光は大幅に減少している。

入域観光客数は、9月11日に発生した米国における同時多発テロ事件の影響で、前年比で10月19.4%減、11月24.4%減、12月12.7%減と3か月連続で大幅に減少している。一方で、航空乗客輸送実績人数をみると、11月に前年比で26.3%減を底に持ち直し、2002年1月1～20日の実績は前年を上回るなど、予断は許さないものの直近では改善の動きもみられる。

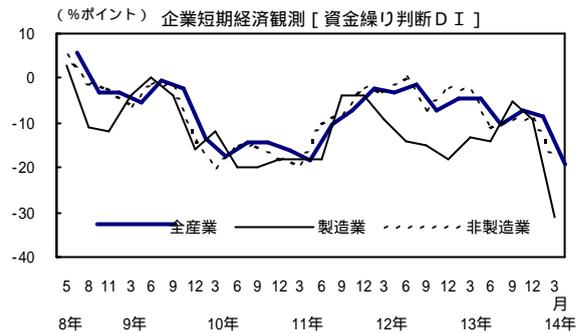


(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

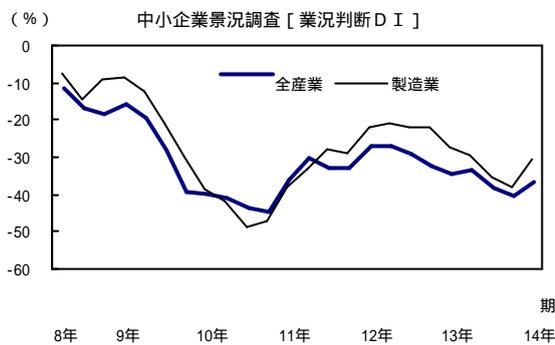
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 九州地区のDI。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「来客数や依頼件数が減少している (不動産業)」など、「やや悪くなる」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

製造業では、食料品で前年度の工場移転投資の反動により前年を下回り、非製造業では、運輸・倉庫でリース物件を自社購入に振り替える動きがみられるものの、大型小売店で前年度の新規出店の反動により前年を下回り、全産業で前年度実績を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	12.0	7.5(9.9)
製造業	7.7	22.2(3.4)
非製造業	12.8	4.7(12.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

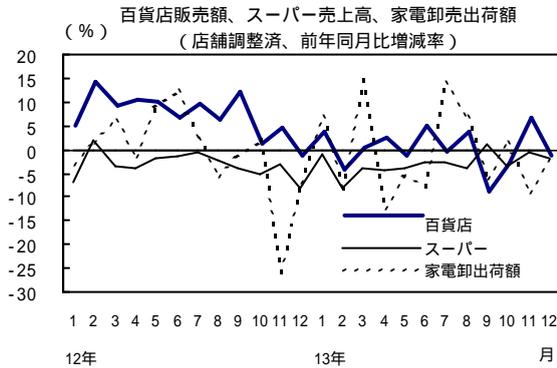
百貨店は、11月に催事効果などにより衣料品を中心に前年を上回ったものの、10~12月期では前年を下回っている。

スーパーは、11月は気温の低下により衣料品、食料品が好調であったものの、衣料品を中心とした単価低下により全体では前年を下回っている。一方で全店ベースでは増加傾向が続いている。

家電は、新築共同住宅向けの需要等によりエアコンが好調なものの、テレビ、冷蔵庫は前年を下回り全体では前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「来客数は増加しているが、購買行動にはかなり慎重な様子がみられ、特に高額商品についてはそれが顕著に出ている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



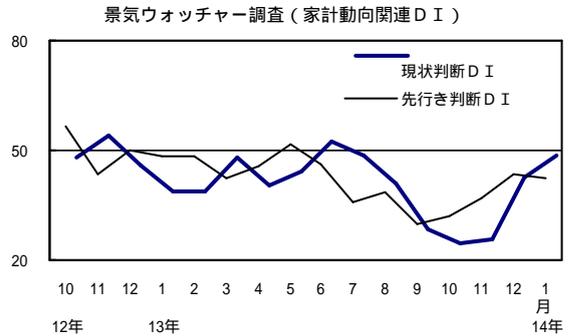
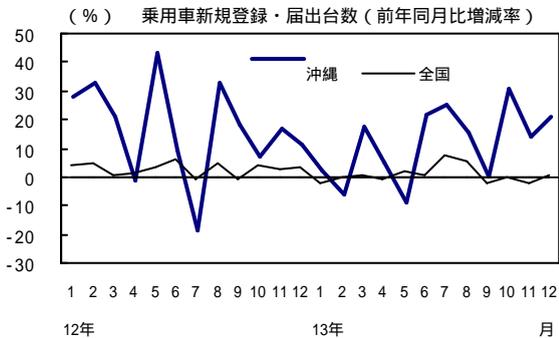
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	1.8	0.3	3.4	1.4
スーパー	4.2	3.7	2.0	2.0
家電卸出荷	5.4	8.4	5.3	3.2
乗用車	2.1	1.5	9.0	16.5
景気ウォッチャー	38.1	41.5	35.3	26.9

(備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。

2. スーパー売上高は日本銀行別荘支店調べ、店舗調整済。

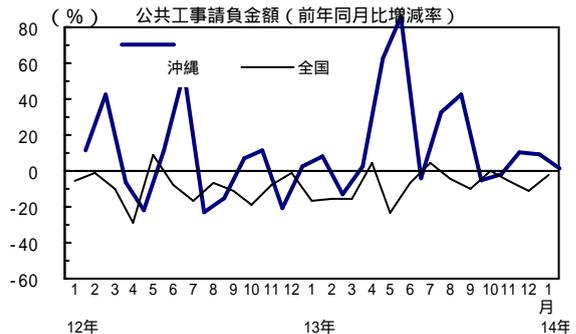
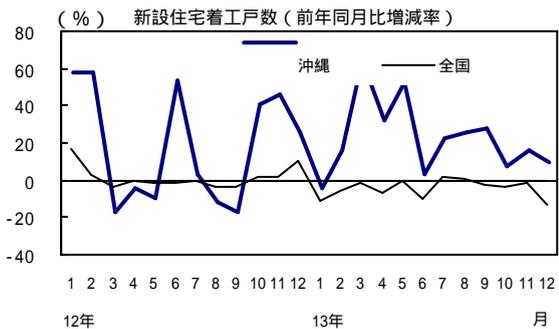
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいである。

貸家の増加は続いているものの持家では前年を下回り、全体ではおおむね横ばいである。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

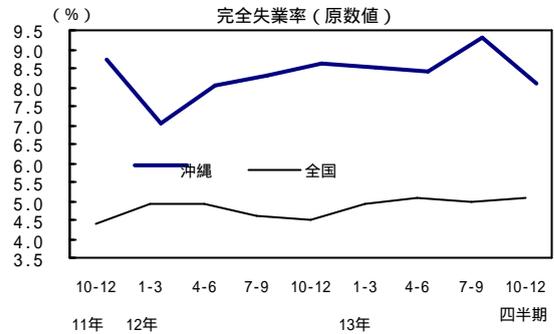
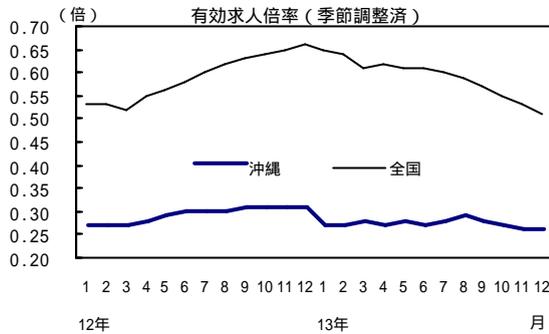


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況である。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、このところ横ばいで推移し、完全失業率は、前年同期を下回っているものの依然として高い水準にある。

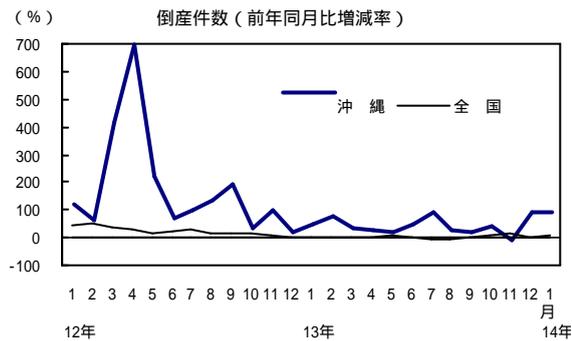


(備考) 失業率は、沖縄県企画開発総務課「労働力調査」より。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

「客からの派遣料金の引下げ依頼が多く、求人数も減っている(人材派遣会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は減少している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数 (前年比)	28 0.0	30 16.7	35 10.3	30 16.7	10 42.9
負債総額 (前年比)	86 30.4	246 100.1	148 68.4	73 20.6	38 24.2

景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・各旅行社のキャンペーンや県の取り組みの効果により来客数が増えており、前年並みの売上を維持している(高級レストラン)
- ・定期的な仕事、単発的な仕事はある程度はあるが、各ユーザーの値下げ交渉が増えていることから利幅が薄くなっている。量としては増えても、率的には利益が出なくなっているため、当面は変わらない(人材派遣会社)

<先行き>

- ・今後大量なりストラ等が予想されることから、求職者が増加する(職業安定所)

